

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:平成31年 3月 5日

事業所名 キンダーハイム地域支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		・保護者の方もご参加いただいているため、広い部屋で活動している。	
	2	職員の配置数は適切である	4		・基準に対し1名多く配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		・玄関から部屋まで、段差のない作りになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		・おはようの会の場所、体操の場所、制作の場所など活動に合わせて位置と目印を決めている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		・保護者向け評価をもとに、職員全員で改善点について検討している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			4	・現在は第三者による外部評価は行っていません。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		・保護者対応、子どもの発達の流れをもとに取り組んだ事例報告等、研修を行っている。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		・保護者からの聞き取りを全員で共有し、お子さんや保護者の様子も踏まえて作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		・ケースによってこども相談センターや医療機関の発達検査などを使用。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	1		全員にガイドラインを配布し、読み合わせを行います。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		・支援計画をもとに遊びや関わり方などの検討し支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		・お子さんの様子や課題を踏まえ、全員で会議をしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		・同じ遊びを繰り返し行わないように配慮しているが、お子さんの理解や成長確認のためあえて少し間をあけて入れることがある。	お子さんの課題に合った様々な遊びを今後も提供できるよう努めます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		・個々の課題から、個別と集団での活動を取り組んでいる。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	・お子さんの様子を予想し、役割について打ち合わせをしている。 (いいえの回答者より) ・その日ではないが事前の打ち合わせをしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		・予想と実際の姿の振り返りと情報共有を行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		・日記録をとっている。 それをもとに支援を考えている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3	1	・6か月を目安にモニタリング、見直しをしているが、お子さんの状況によっては6か月未満でのモニタリングを行うこともある。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		・主に児発管が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		・保健福祉センターや家児相との連携。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				医療的ケアが必要なお子さんは現在ご利用ではありません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				医療的ケアが必要なお子さんは現在ご利用ではありません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・保護者の要望に合わせて、必要に応じて行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3		・保護者の要望に合わせて、必要に応じて行っている。 ・スムーズな就学に向けて、サポートブック作成方法を保護者に説明。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	・ケースの状況に合わせて連携し、助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	1	・きょうだい児の参加もある。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	2	・施設長や主任が参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		・自由遊びの時間や帰る準備の時間を用いて話している。 ・必要に応じて、残っていただき懇談を行っている。	・自由遊びの時間では時間が足りない場合、別の時間にお話を伺うこともできることを再度個別にお声かけをします。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4		・就学の流れ、サポートブックについて、遊びの意味、こだわり等グループの状況に合わせて学習会を行っている。	・(学習会以外の支援として)おもちゃ片付けの声かけを早くするなど時間割を見直し、感想会を行う時間の確保に努めます。また、感想会実施日を予め保護者にお伝えし、ご参加いただきやすいよう配慮します。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			・ミーティングの時期を月々に回ごとに懇談を行っています。それ以外の時でもご相談いただけるよう必要に応じて、再度お声かけします。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	・保護者同士が話しやすいように職員が間に入ることもある。 ・会の開催はないが、自由遊びの時間を使いお話しただいてよいことを、初回にお伝えしている。	・保護者同士で連携していただけるよう自由遊びの時間の活用を、新グループが始まった時に再度お声かけします。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		・お子さんへの関わり方など、保護者の方からご相談があった場合は、職員全員で共有し対応について検討。なるべく早くお答えできるように努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		・プログラムは定期的に発行。ホームページは随時更新。	・ホームページを更新時、保護者の方に連絡します。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		・現在はグループごとのイベントを行っています。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		・職員はマニュアルを読み、全員で避難の仕方について話し合っています。	・マニュアルはお部屋の棚にあることを保護者の方にお伝えします。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		・避難訓練を4日(8回)に分けて実施。	・訓練実施日にお休みされた方もおられるため、次年度は実施回数を増やします。またプログラムにて訓練実施日を予告します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	1	・契約時に服薬等について聞き取りをし、職員全員で把握。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	・契約時に聞き取りをし、医師の指示に基づいてクッキングを実施。	・現在は医師の指示書の提出はしていませんが、必要に合わせ提出をお願いすることもあります。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		・気づいたことがあった時にはその都度職員全員で確認し、対応を検討している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		・毎年研修を実施。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。